

## 1 最小化 (Minimization)

2

3 現象を理論化・法則化して説明するときに、できるだけ単純な言葉で説明すべきである。

4 現象を説明するときに、より少ない条件で単純化して説明した方が、より広く様々な現象

5 を説明できる。これが単純化する理由である。コペルニクス的な地動説が受け入れられる

6 のは、地動説が正しく、天動説が間違っていることが証明されたからではない。地動説が

7 天動説で説明できる現象をすべて説明したうえで、天動説が説明できない現象を説明でき

8 るからである。説明できない現象を、例外として放り出すのではなく、よりひろく現象を

9 説明できる法則を選ぶべきである。QCA の初期解を言語学化すると、長く分かりにくい

10 説明になる。これを解りやすく単純な言葉で出来るように、論理剰余を加えることによっ

11 て、論理積、論理和を構成する条件を減らし、より節約的な(parsimonious)な論理構成に

12 していく。これを Minimization という。得られたいくつかの解から、被覆度（全体の事例

13 の中で、それによって説明できる事例の割合）と一貫性、言語的解釈妥当性のバランスの

14 中で、最終解が選択される。これが、QCA の分析である。このプロセスを厳密に行えば、

15 論理的に妥当で、解釈可能な解が得られる。ここに問題はない。しかし、それ以前の段階、

16 全の段階、閾値やメンバーシップ値の決定において、被覆度を上げるためにメンバーシッ

17 プ値を操作すると、一種の過剰適合（その事例だけに説明能力が高く、他の事例には当て

18 はまらない現象）になる可能性が高い。